

LCC News Letter 6

同志社校友会大阪支部産官学部会

LCC広報担当

6 December 2010

「LCCソーシャル・イノベーションセミナー」を開催

去る平成22年11月26日(金)夜、同志社大学京町家キャンパス江湖館に於いて、政策学部今里滋教授のご講演を20数名の参加者が熱心に耳を傾けました。このセミナーは5回シリーズで、今回のテーマは、「良心教育とソーシャル・イノベーション」、興味溢れる話題ばかりで、限られた紙面では全容をお伝えできないのが残念です。今里教授が話された数々の人物の中から、特に、私が印象を受けた二人、栃迫篤昌氏とスティーブ・ジョブズに少し触れます。

小さな金融で世界を変えた同志社経済学部OB！

優れた社会起業家を支援するアショカ財団のフェローに日本人で初めて選ばれた栃迫篤昌氏（'76年同志社卒）をご存知でしょうか。彼は「銀行はなぜ貧しい者を救えないのか」そんな素朴な疑問を解消しようと勤めていた銀行を辞め、独自のインターネットを利用したシステムを開発し、手数料が格安の国際送金サービスを米ワシントンで始めました。世界が注目する斬新な金融ビジネスアメリカから発展途上国向けの"出稼ぎ送金"は約11兆円に上り、労働者の故郷にいる家族にとって送金はライフラインです。

金融は貧しさから助けを必要としている人のためのものだ」と、銀行口座を持たず正規の金融サービスを受けられない出稼ぎ労働者や貧困層を対象に、IT技術と先端金融技術を駆使し巨額の移民送金の流れをマイクロファイナンスの活性化に結ぶつけるビジネスモデルを考案し、マイクロファイナンス・インターナショナル・コーポレーションを設立したのです。来る平成23年1月19日(水)同志社大学リエゾンフェアが、同志社大学リエゾンオフィス・知的財産センター主催で開催されますが、新・都ホテルの陽明殿(13:15~14:15)にて、栃迫篤昌氏が「米国に於ける産官学連携成功の秘訣」と題して、基調講演をされます。



京町家キャンパス江湖館

リバタリアンの代表 スティーブ・ジョブズ

辞書によればリバタリアニズム(libertarianism)とは、「他者の権利を侵害しない限り、各個人の自由を最大限に尊重すべきとだと考え、リバタリアニズムを主張する者をリバタリアンと呼ぶ」とあります。

スティーブ・ジョブズはご承知のアップル社の共同設立者の一人です。今里教授はリバタリアンの代表例として彼の生い立ちから、その波乱に富んだ「生き様」について話をされました。

スティーブ・ジョブズをWeb上で検索され、米国スタンフォード大学卒業式で2005年月6月12日に行ったジョブズの感動的なスピーチから今里教授のお話の一端が伺えますから是非、お試し下さい。

(文責：北出 至)